



ウイトラレポート 2009 年 3 月号

「 IMT バンドの拡張動向と問題点 」

はじめに

3GPP で Release8 の仕様書が完成し、いわゆる 3.9 世代システムと言われる LTE も実用化検討の段階に入った。並行して対抗技術である WiMAX は現在実用化が始まる状況である。またヨーロッパでは 3.5 世代の HSPA が広まりを見せており、BRICs 諸国も HSPA のサービスを開始している。これらは採用する技術に違いはあってもいずれもモバイルブロードバンドを目指している。

当然のことであるが、新しいシステムを導入するためには新しい周波数帯が必要となる。日本の状況でいえば、第 2 世代システムである PDC の運用をやめて 3.9 世代の LTE に周波数を割り当てればすんなりいくのであるが実際には既に顧客のついたシステムの運用を停止するのは大変なことであり、かなり先のことになる。それまで新システムの運用開始を待つことなく、新たな周波数帯でシステム運用を開始し、古いシステムのユーザー数が十分に少なくなった時に運用を停止して新システムの容量拡大に振り向けるのが普通の考え方である。この意味で今日本では 800MHz 帯、1.5GHz 帯、1.7GHz 帯の再編などが論議されている。

しかし、このようにして捻り出した周波数帯ではその上下で様々なシステムが運用されており、それらの別システムとの干渉が問題となることが多い。今月はこのモバイルブロードバンドに対する周波数行政の動向と、実際の運用では各国で様々な課題がありそれをどのように解決しているかを、特に日米の状況を例にとって動向を分析する。